

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492601396	事業の開始年月日	平成30年12月1日
		指定年月日	平成30年12月1日
法人名	医療法人社団 愛友会		
事業所名	グループホーム 宮下本町		
所在地	(252-0211) 神奈川県相模原市中央区宮下本町2-36-4-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和2年10月25日	評価結果 市町村受理日	令和3年3月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ご利用者様のご家族との信頼関係が出来ており、安心してあずけられる施設を目指している。
- ご利用者様を通じて、ご家族様の安心・安全を図っている。
- 施設における生活の中にレクリエーションを積極的に取り入れ、ご利用者様本人の生活の質や身体機能的活性化を図っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年11月30日	評価機関 評価決定日	令和3年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は京王相模原線「多摩境」駅から徒歩15分程の、近くに境川が流れる静かな住宅地にあります。各ユニットはリビングをフロア中心に配置しているため利用者が集いやすく、職員の見守りもしやすくなっています。医療法人を母体としているので、医療面、健康面のサポートが充実しています。近隣に同法人の老人ホームが2ヶ所あります。

<優れている点>

開設から2年程ですが地域と良い関係を築いています。今年度は10月に開催した地域包括支援センター主催のウォークラリーに、事業所がポイント地点として協力をし、管理者が認知症に関するクイズを出題しています。利用者の担当職員が毎月個別の「月次報告書」を家族に送っています。「新聞たみ」や「おしぼり巻き」を手伝う場面では、利用者の「あまり丁寧じゃないけどこれでいい？」という職員との笑顔のやりとりや、洗濯物たみでは「(私が)やるからこっち持ってきて」など利用者が役割を持ち、生き生きと生活をしている一コマを丁寧に切り取って家族に知らせています。

<工夫点>

体を動かす機会を増やすための工夫をしています。事業所内各所(リビング、玄関ホール、階段途中など)の番号札をタッチして歩き、歩みに応じてシールがたまるとプレゼントがもらえるお楽しみを準備しています。その他、レッグプレスの運動器具なども活用しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 宮下本町
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	平成30年12月に作成した理念を掲示しています。理念の意味、理念を実現するため職員は何をするべきか？をミーティングで問いかけたり、理念を配布して共有を心がけています。理念実践に向けて目標設定などの具体的な取組みが課題と考えています。	「当たり前生活を安心して過ごせるホームを目指します」の事業所の運営理念と6つのケア理念を玄関壁や各フロアに掲示しています。また、法人の行動指針もあり、職員にはミーティングの折に説明し、新入職員にも理念を配付するなど共有化を行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会等の催事、地域支援センターイベントなどの地域交流に参加しています。また、散歩がてら近隣のコンビニエンスストアでの買い物にも出向いております。今後は施設で催すイベントに近隣の方々の参加をお願いしようと考えています。	自治会に加入し、行事やイベントに参加していましたが、今年度はコロナ禍のため休止しています。10月に開催した地域包括支援センター主催のウォークラリーに事業所がポイント地点として協力をしています。認知症に関するクイズも出題しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症ケアや介護保険に関する質問、問合せに対し、運営推進委員会や地域交流の際に対応を行っています。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	令和2年1月までは2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を実施し、自治会長、民生委員、地域包括、ご家族様、利用者様などに参加いただき運営改善や地域情報収集の場として活用しておりますが、3月以降はコロナウィルスの影響で実施ができなくなっております。	令和2年1月までは、家族、老人会々長、民生委員、地域代表者、地域包括支援センター職員の出席で定期的に運営推進会議を開催していましたが、相模原市の要請もあり、3月以降は休止状態です。12月からは書面送付による会議形式で再開をする予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	高齢者支援センターを定期的に訪問し、利用者情報の提供をお願いしております。また、生活保護受給者も施設利用しているため、相模原市役所生活支援課の担当者と情報交換・情報共有を進めています。	市の担当課に運営推進会議の議事録を送付し、事業所の実情や取組みを伝えています。利用者の担当ケースワーカーと電話連絡で随時連携し、利用者を支援しています。地域包括支援センターに毎月訪問し協力連携を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	原則、身体拘束をしないことを基本とし、カンファレンスの際などに身体拘束についての理解を深めるよう研修を実施しています。ご家族様から利用者様の身体拘束を依頼され、実施した方が利用者様ご自身のためになると判断された場合、身体拘束をすることがあります。	身体拘束防止のマニュアルを教材にして、新入職員の研修を行っています。カンファレンスでは折に触れ職員に具体的な身体拘束の禁止事項を伝え、防止に努めています。また、行動指針の中にも12項目の行わない行為を挙げています。玄関の鍵による閉じ込めも行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束をしないことと同様に、カンファレンスの際などに虐待の防止の徹底について理解を深めるよう研修を実施しています。また、行政が主催する虐待防止講演会に積極的に参加するよう職員に呼びかけをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行政が主催する権利擁護に関する講演会に積極的に参加するよう職員に呼びかけをしています。また、令和2年末に内部研修を予定しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結・解約については契約の際に十分な時間をとって説明することはもちろん、解約については解約前に再度説明を実施しています。また、改定の際は書面にてご家族様に説明を行い、同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	令和2年1月までは運営推進会議を通じて利用者様、ご家族様、外部者のご意見を伺ったり運営への反映状況について説明を行っていましたが、コロナウィルスのため現在は個別対応を行っています。職員へはカンファレンス等を通じて情報共有を図っています。	6ヶ月に1回のケアプラン更新時に家族の意見を聞いています。意見箱も玄関に設置しています。コロナ禍で家族訪問が出来ないため、月1回の月次報告には、居室担当者が食事や入浴、睡眠などの日常生活や活動を詳しく伝えていきます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス等を通じて職員の意見や提案を聞いています。また、運営への反映状況を説明しています。	各フロア別にカンファレンスを月1回開催しています。カンファレンスでは利用者一人ひとりの状態についての報告と検討を2時間行っています。コロナ禍の中、職員意見で利用者を積極的に散歩に誘う活動を実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	地域ごとにエリアマネージャー任命され、各施設の状況を把握、総務部と連携して職場環境・就業条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部及び内部研修に適宜参加させています。2ヶ月に1度リーダー研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	神奈川県認知症高齢者GH協議会に参加し交流を深めたり、研修に参加したりしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	最初の介護計画は、利用者様本人が施設に慣れていただくことに重点を置いて立案しています。職員には信頼関係を構築するよう指示するとともに、毎日の申送りや連絡帳を活用して情報共有を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前アセスメントの際、ご家族様が抱えていた介護問題、負担や入居後の利用者様がどのように過ごしたいか等を確認するよう努めています。入居後の様子について定期報告を含め、適宜報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談に来所される殆どの方が、介護保険サービスに関する知識が低い印象があります。入所を検討されているご家族様には、現在抱えている介護負担、経済状況等を確認し、場合によっては在宅サービスや小規模多機能施設入所などの利用を提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様を、お客様扱いするのではなく、できる限り自立できるよう、共生できるよう支援するのが職員の責務であると話をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナウイルス流行までは、ご家族様に、いつでも気軽に来所いただいていたのですが、現在は事前予約の短時間面会や、必要に応じた報告・連絡・相談を心がけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在はコロナウイルスの影響で中止していますが、友人・知人の来所は積極的に受け入れています。また、本人様の希望とご家族様の承諾があれば、指定の場所に出向くことも心がけています。	コロナ禍で遠くへの外出を自粛しています。これまでのような里帰りや美容院、墓参り、レストランへの外出など利用者に馴染みの人や場所との接触は出来ていませんが、近くの自動販売機の飲み物を飲むことが習慣になった利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の相性や関係等は各職員が把握しています。日常生活では協力したり支えあっている場面も多いと感じています。全員で何かを行う際、拒否される方もいますが、必ず声がけし孤立しないよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今後、退去された方々へのイベント等への参加のお誘いや、必要に応じた相談・支援にも努めます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の希望・要望についてはできる限り添うよう努めています。難しい場合は、なるべく近似の方法で叶える取組みを行っています。日々の言動からも情報収集する意識を持ち、想いを具現化する方法を模索しています。	思いや意向を把握するため、居室担当者を決めています。1人の職員が2～3名を担当しています。思いを引き出すため、利用者の発言を「そうですね」など常に肯定して会話をしています。利用者同士の関係性も考慮し席替えをするなどの配慮をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	基本情報は契約時のアセスメントですが、日々の会話やご家族様との会話等から得た情報を職員全員が共有するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	各居室担当者を中心として、各利用者様の現状を把握し、ケアカンファレンス等を活用して職員全員が共有するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスは、各居室担当者を中心にご本人様やご家族様からの情報を基にケアスタッフ、管理者、ケアマネ等の関係者にて実施しています。その中での意見等をケアプランに反映させるようにしています。	各フロアのケアマネジャーが6ヶ月に1回介護記録などを基礎資料として見直しを行っています。家族の希望や意見を出来るだけ取り入れて計画書を作成し、郵送してサインを得ています。現在介護度認定作業もコロナ禍の影響を受け遅れてています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々、個人記録を作成しています。また、申送りノート等も併用して情報共有に努めています。介護計画の見直し等は各スタッフ間で問題点を把握した後、全体カンファレンスを開催し、計画の見直しを図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	全体レクリエーションの他にも、利用者様単位での「買い物に行きたい。」とうの要望には、できる限り対応するようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウィルス流行のため、現在は中止していますが、盆踊りやピアノ演奏会、自治会・地域包括支援センター主催のイベントにできる限り参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当施設を運営している、医療法人社団の医師が主治医となります。専門医の診断が必要な場合は、専門医への紹介状を主治医から取得しています。	月2回運営医療法人の内科医と週1回歯科医の往診があります。通院が必要な場合は主治医から紹介状を得ています。通院の際は家族と必ず管理者が付き添っています。週1回看護師の来訪があり、健康管理のサポートを受けています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問診療の担当医の他にも、1週間に1回、看護師が来所しています。その際、利用者様情報や気付いた点を報告しています。また、訪問診療日以外でも、何かあれば医療機関に相談できるシステムを構築しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入退院した際は、病院関係者から情報収集し、当施設からは情報提供を実施しています。他病院関係者との関係作りは、当施設を運営している医療法人社団の理事長（院長）が行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に看取りの方針、終末期のあり方について説明をしています。終末期に医療行為が増した際、単に病院だけを選択肢にせず、当法人で引き受けられる医療行為の範疇を説明し、希望があれば見取りを実施します。	入居時に延命治療の確認同意書で説明をしています。医師が重度化や終末期と判断した際は再度話し合いをし、方針を共有していく体制を作っています。これまで看取りの事例はありませんが、看取りの同意書の書式の整備も今後の検討としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応についてマニュアル化はしていますが、実際の初期対応や応急手当についての訓練は充分ではありません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練実施と共に地元自治会と協力体制を構築しています。災害発生時の近隣との協力体制強化が課題と考えています。	避難確保計画を立てています。今年度は新型コロナウイルスの影響で計画通りの実施に至っていません。備蓄は水や食品を3日分程度確保しています。カセットコンロや消毒液、AED（自動体外式除細動器）など災害や緊急時の備えに課題が見受けられます。	昼夜を問わず、あらゆる災害に備えた避難訓練の実施が期待されます。災害や緊急時の備えについても、事業所の現状を踏まえながら運営法人と計画的に取り組んで行くことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の人格の尊重と個人のプライバシー保護を目指し、職員相互によるケア意識の向上を目指しています。 (e x.個人を特定できる不利益者の指名の秘匿)	行動指針の「人を敬い、尊重します」の実践に努めています。利用者が不穏な様子の際は否定せずに優しく触れて寄り添ったり、傾聴したりしています。職員の接遇面で指導が必要な場合は、その都度具体的な例を示し、注意喚起を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の希望や意思を尊重し対応することを職員の基本としています。希望や意思の表現が苦手な利用者様については職員が寄り添い自己決定ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員が利用者様の個別のペースに合わせて何かを行う事で、利用者様が安心して、落ち着かれて過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服の選択は、できる限り本人に決めていただいています。衣替えはご家族様や居室担当者が一緒に行っています。理美容もカットだけでなく、本人の要望に沿って対応しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	実施できる能力を見極め、下準備、調理、取り分け、配膳、片付け等に強力いただいています。	献立に沿った食材が業者から届き、職員が手作りをしています。利用者は盛り付けやテーブルの消毒、箸を揃えたりして食事の準備に関わっています。流しそうめん、餃子、焼きそば、チョコレートフォンデュなどレクリエーションで食を楽しむ機会も豊富です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスは、福祉食メニューを導入していますので、各利用者様に応じた量を摂取していただければ特段問題はないと考えています。水分量も個別記録に記載して適量を確保できたか確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科医、訪問歯科衛生士の指示のもと、口腔状況の確認、各利用者様に応じた口腔ケア方法を実施しています。訪問歯科診療は隔週実施、歯科衛生士による口腔ケアは毎週実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	失禁が増えた際は、排泄誘導を増やして対応しています。また、歩行が困難な利用者様に対しても、リハビリパンツやパットに依存するのではなく、トイレに誘導し排泄していただくようにしています。	日中はトイレでの排泄を基本とし、毎月の会議で全利用者のケース検討をしています。支援の見直しが必要なケースなども話し合っって記録に残し、職員間の支援方法を統一するようにしています。職員の適切な声かけや誘導で失敗が減り改善した事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	福祉食メニューに加え、牛乳やヨーグルト等の乳製品を多く摂取することによって予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的な入浴日を決めてはありますが、要望があれば入浴できるよう柔軟に対応しています。対応が難しい場合は、後日改めて対応するようにしています。	入浴は週3回を基本としています。両ユニットの浴室にリフトを設置しているので全利用者が湯舟で温まることができます。入浴が大好きな利用者は鼻歌を歌ったしています。浴槽の湯はその都度入れ替えをしており、皆が一番風呂を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転の起きない範囲で、利用者様ご自身の意思で、居室での休憩や午睡はしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情は各利用者様のお薬手帳などで把握するよう努めています。服薬などの支援は、状況・状態に応じ、薬剤師の確認のもと対応しています。症状の変化等、何かあれば直ぐ医療関係者に報告や相談できる体制を構築しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	はり絵や塗り絵等の工作や運動会、流しそうめん等のイベントを実施するとともに、利用者様に何らかの役割を担っていただくことにより、張り合いや喜び、変化のある日々を過ごしていただけるよう配慮しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良いときには散歩時間を設けるよう心がけています。また、現在はコロナウィルスの影響で中止していますが、ご家族様との外出は積極的に実施していただいています。	近隣散歩や好きな飲み物を自動販売機に買いに行っています。コロナ禍で現在は中止していますが、例年は毎月の外食や季節の外出を楽しめるよう支援しています。家族との個別の外出も現在は控えてもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理は施設で行っていますが、嗜好品や日用品の購入は、ご家族様の承認のもと、本人の意思に添って購入できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は、ご希望があればかけることができます。また、個人携帯電話も禁止していません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	祭事（ひな祭り、七夕、クリスマス等）に合わせ、利用者様が作成した工作物を館内に展示しています。	今年度は特に重きを置いた消毒や清掃、空調、加湿機能付きの空気清浄機、窓を開けての換気など、快適さを心がけているほか、安全性にも配慮をしています。また、季節や行事に合わせた作品を利用者と制作をして展示しています。利用者同士おしゃべりをしたり、一人で本を読んだり思い思いに過ごせる空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事やお茶を飲まれる際の席は決めております。その他、フリースペースにソファを設置し、利用者様同士のコミュニケーションを図っていただく場としています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や、好みの私物をご自宅から持参いただき、居心地に配慮しています。	居室にはベッド、タンス、空気清浄機など生活に必要な物をあらかじめ設置しています。利用者はそれ以外に位牌や写真、好きな本、使い慣れた家具などを持ち込んでいます。居室担当職員が整理整頓をし、衣類の入れ替えや不足品の確認などもしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室入り口に利用者様の写真・氏名を掲示しています。トイレ等の案内表示の他、廊下、トイレ内に手すりを設置しています。		

事業所名	グループホーム 宮下本町
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	平成30年12月に作成した理念を掲示しています。理念の意味、理念を実現するため職員は何をすべきか？をミーティングで問いかけたり、理念を配布して共有を心がけています。理念実践に向けて目標設定などの具体的取組みが課題と考えています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会等の催事、地域支援センターイベントなどの地域交流に参加しています。また、散歩がてら近隣のコンビニエンスストアでの買い物にも出向いております。今後は施設で催すイベントに近隣の方々の参加をお願いしようと考えています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症ケアや介護保険に関する質問、問合せに対し、運営推進委員会や地域交流の際に対応を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	令和2年1月までは2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を実施し、自治会長、民生委員、地域包括、ご家族様、利用者様などに参加いただき運営改善や地域情報収集の場として活用しておりますが、3月以降はコロナウィルスの影響で実施ができなくなっております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	高齢者支援センターを定期的に訪問し、利用者情報の提供をお願いしております。また、生活保護受給者も施設利用しているため、相模原市役所生活支援課の担当者と情報交換・情報共有を進めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	原則、身体拘束をしないことを基本とし、カンファレンスの際などに身体拘束についての理解を深めるよう研修を実施しています。ご家族様から利用者様の身体拘束を依頼され、実施した方が利用者様ご自身のためになると判断された場合、身体拘束をすることがあ		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束をしないことと同様に、カンファレンスの際などに虐待の防止の徹底について理解を深めるよう研修を実施しています。また、行政が主催する虐待防止講演会に積極的に参加するよう職員に呼びかけをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行政が主催する権利擁護に関する講演会に積極的に参加するよう職員に呼びかけをしています。また、令和2年末に内部研修を予定しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結・解約については契約の際に十分な時間をとって説明することはもちろん、解約については解約前に再度説明を実施しています。また、改定の際は書面にてご家族様に説明を行い、同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	令和2年1月までは運営推進会議を通じて利用者様、ご家族様、外部者のご意見を伺ったり運営への反映状況について説明を行っていましたが、コロナウィルスのため現在は個別対応を行っています。職員へはカンファレンス等を通じて情報共有を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス等を通じて職員の意見や提案を聞いています。また、運営への反映状況を説明しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	地域ごとにエリアマネージャー任命され、各施設の状況を把握、総務部と連携して職場環境・就業条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部及び内部研修に適宜参加させています。2ヶ月に1度リーダー研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	神奈川県認知症高齢者GH協議会に参加し交流を深めたり、研修に参加したりしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	最初の介護計画は、利用者様本人が施設に慣れていただくことに重点を置いて立案しています。職員には信頼関係を構築するよう指示するとともに、毎日の申送りや連絡帳を活用して情報共有を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前アセスメントの際、ご家族様が抱えていた介護問題、負担や入居後の利用者様がどのように過ごしたいか等を確認するよう努めています。入居後の様子について定期報告を含め、適宜報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談に来所される殆どの方が、介護保険サービスに関する知識が低い印象があります。入所を検討されているご家族様には、現在抱えている介護負担、経済状況等を確認し、場合によっては在宅サービスや小規模多機能施設入所などの利用を提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様を、お客様扱いするのではなく、できる限り自立できるよう、共生できるよう支援するのが職員の責務であると話をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナウイルス流行までは、ご家族様に、いつでも気軽に来所いただきましたが、現在は事前予約の短時間面会や、必要に応じた報告・連絡・相談を心がけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在はコロナウイルスの影響で中止していますが、友人・知人の来所は積極的に受け入れています。また、本人様の希望とご家族様の承諾があれば、指定の場所に出向くことも心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の相性や関係等は各職員が把握しています。日常生活では協力したり支えあっている場面も多いと感じています。全員で何かを行う際、拒否される方もいますが、必ず声がけし孤立しないよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今後、退去された方々へのイベント等への参加のお誘いや、必要に応じた相談・支援にも努めます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の希望・要望についてはできる限り添うよう努めています。難しい場合は、なるべく近似の方法で叶える取組みを行っています。日々の言動からも情報収集する意識を持ち、想いを具現化する方法を模索しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	基本情報は契約時のアセスメントですが、日々の会話やご家族様との会話等から得た情報を職員全員が共有するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	各居室担当者を中心として、各利用者様の現状を把握し、ケアカンファレンス等を活用して職員全員が共有するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスは、各居室担当者を中心にご本人様やご家族様からの情報を基にケアスタッフ、管理者、ケアマネ等の関係者にて実施しています。その中での意見等をケアプランに反映させるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々、個人記録を作成しています。また、申送りノート等も併用して情報共有に努めています。介護計画の見直し等は各スタッフ間で問題点を把握した後、全体カンファレンスを開催し、計画の見直しを図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	全体レクリエーションの他にも、利用者様単位での「買い物に行きたい。」という要望には、できる限り対応するようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウィルス流行のため、現在は中止していますが、盆踊りやピアノ演奏会、自治会・地域包括支援センター主催のイベントにできる限り参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当施設を運営している、医療法人社団の医師が主治医となります。専門医の診断が必要な場合は、専門医への紹介状を主治医から取得しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問診療の担当医の他にも、1週間に1回、看護師が来所しています。その際、利用者様情報や気付いた点を報告しています。また、訪問診療日以外でも、何かあれば医療機関に相談できるシステムを構築しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入退院した際は、病院関係者から情報収集し、当施設からは情報提供を実施しています。他病院関係者との関係作りは、当施設を運営している医療法人社団の理事長（院長）が行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に看取りの方針、終末期のあり方について説明をしています。終末期に医療行為が増した際、単に病院だけを選択肢にせず、当法人で引き受けられる医療行為の範疇を説明し、希望があれば見取りを実施します。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応についてマニュアル化はしていますが、実際の初期対応や応急手当についての訓練は充分ではありません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練実施と共に地元自治会と協力体制を構築しています。災害発生時の近隣との協力体制強化が課題と考えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の人格の尊重と個人のプライバシー保護を目指し、職員相互によるケア意識の向上を目指しています。 (e x. 個人を特定できる不利益者の指名の秘匿)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の希望や意思を尊重し対応することを職員の基本としています。希望や意思の表現が苦手な利用者様については職員が寄り添い自己決定ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員が利用者様の個別のペースに合わせて何かを行う事で、利用者様が安心して、落ち着かれて過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服の選択は、できる限り本人に決めていただいています。衣替えはご家族様や居室担当者が一緒に行っています。理美容もカットだけでなく、本人の要望に沿って対応しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	実施できる能力を見極め、下準備、調理、取り分け、配膳、片付け等に強力いただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスは、福祉食メニューを導入していますので、各利用者様に応じた量を摂取していただければ特段問題はないと考えています。水分量も個別記録に記載して適量を確保できたか確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科医、訪問歯科衛生士の指示のもと、口腔状況の確認、各利用者様に応じた口腔ケア方法を実施しています。訪問歯科診療は隔週実施、歯科衛生士による口腔ケアは毎週実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	失禁が増えた際は、排泄誘導を増やして対応しています。また、歩行が困難な利用者様に対しても、リハビリパンツやパットに依存するのではなく、トイレに誘導し排泄していただくようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	福祉食メニューに加え、牛乳やヨーグルト等の乳製品を多く摂取することによって予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的な入浴日を決めてはありますが、要望があれば入浴できるよう柔軟に対応しています。対応が難しい場合は、後日改めて対応するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転の起きない範囲で、利用者様ご自身の意思で、居室での休憩や午睡はさせていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情は各利用者様のお薬手帳などで把握するよう努めています。服薬などの支援は、状況・状態に応じ、薬剤師に確認のもと対応しています。症状の変化等、何かあれば直ぐ医療関係者に報告や相談できる体制を構築しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	はり絵や塗り絵等の工作や運動会、流しそうめん等のイベントを実施するとともに、利用者様に何らかの役割を担っていただくことにより、張り合いや喜び、変化のある日々を過ごしていただけるよう配慮しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良いときには散歩時間を設けるよう心がけています。また、現在はコロナウィルスの影響で中止していますが、ご家族様との外出は積極的に実施させていただいています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理は施設で行っていますが、嗜好品や日用品の購入は、ご家族様の承認のもと、本人の意思に添って購入できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は、ご希望があればかけることができます。また、個人携帯電話も禁止していません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	祭事（ひな祭り、七夕、クリスマス等）に合わせ、利用者様が作成した工作物を館内に展示しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事やお茶を飲まれる際の席は決めております。その他、フリースペースにソファを設置し、利用者様同士のコミュニケーションを図っていただく場としています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や、好みの私物をご自宅から持参いただき、居心地に配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室入り口に利用者様の写真・氏名を掲示しています。トイレ等の案内表示の他、廊下、トイレ内に手すりを設置しています。		

2020年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム 宮下本町
 作成日: 令和3年3月15日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	夜間帯は介護職員が各階1名づつの配置の為、緊急時の対応に不安がある。	緊急時の対応や連絡体制の知識・技術を習得する。不安の軽減を図る。	緊急時の対応や連絡体制について、実践に即した研修を実施する。	2ヶ月
2	47	服薬支援において落薬・口中内浅等のヒヤリが多い。(職員の入退の為)	研修 ヒヤリを0にする。	職員2人でのダブル確認・声掛け、口中内確認の実施	3ヶ月
3	13	消防訓練において、火災以外にも想定される防災訓練が実施されていない。	地震・台風等、停電時の食事等にも混乱させない対応出来る様にした。	防災グッズの確認と備蓄 会員の定期実演を行って行く。 消防署と連絡し研修を 開催し、様々な災害に 対する訓練を実施する。	2ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月